生徒指導通信

令和８年11月６日
熊野町立熊野東中学校
生徒指導部

～今私たちが身につけるべき「自律」と「やり切る力」～

文化祭が終わり、３年生にとっては進路選択の本格的なシーズンが始まりました。また、１・２年生にとっても、自分の将来や進路目標について具体的に考えを深める大切な時期を迎えています。皆さんは、高等学校や社会が「どのような生徒を求めているのか」について、考えたことがありますか？

１．広島県の公立高等学校が求める共通した「４つの生徒像」

広島県の公立高等学校の受入方針（アドミッション・ポリシー）を分析すると、共通して次の「４つの生徒像」が提示されています。これらは単に入試のためだけではなく、これからの人生をより良く生きていくために必要な力です。

・自分から学ぶ人（主体的な学び）

授業や課題に受け身で取り組むだけでなく、「もっと知りたい」「できるようになりたい」と、自ら進んで知識や課題に向き合おうとする生徒。

・最後までやり切る人（困難への挑戦）

難しい課題に直面したり、失敗したりしても簡単に諦めず、工夫を重ねながら何度でも挑戦を続けられる生徒。

・仲間と協力できる人（他者尊重・協働）

自分とは異なる考えや立場も大切にし、仲間と支え合い、高め合いながら一緒に成長していける生徒。

・自分から行動できる人（規範意識・自律）

時間やルールを守り、挨拶や身だしなみなど「当たり前のこと」を大切にする生徒。そして、学校や地域の一員として、自分にできることを考えて自主的に行動できる生徒。



２．高等学校が求める「伸びしろ」と「人間性」とは？

高等学校が大切にしているのは、今後の成長を左右する「伸びしろ（成長する力）」と、周りと力を合わせる「人間性（協働する力）」です。

○「伸びしろ」と「人間性」を成長させる「６つの行動と能力」

・学ぶ姿勢・急成長する力

指導者のアドバイスにしっかり耳を傾け、行動を素直に変える。

・課題を改善する力

「なぜうまくいかなかったのか」「次はどうすべきか」の原因と対策を自ら考える。

・やり切る力・継続力

壁にぶつかっても諦めず、最後まで努力を続ける。

・責任感・自己管理力

指示される前に自ら行動し、時間を守り、準備や片付けを自主的に行う。

・信頼関係を築く力

仲間や周囲の人と誠実に関わり、気持ちの良い挨拶や返事ができる。

・生活をコントロールする力

学習と部活動を両立させ、授業や提出物に最後まで責任をもつ。

高校側が求めている「伸びしろ」や「人間性」は、入試や面接といった特別な場面で突然表れるものではありません。毎日の「授業」「提出物」「挨拶」「掃除」「係活動」「部活動」という、普段の学校生活の中にそのまま表れ、身に付いていくのです。

３．なぜ「調査書の評定」が合否に関係するのか？

高校入試では、入試当日のテストだけでなく、中学校での教科の成績も大切な資料になります。では、なぜ中学校での成績が大切なのでしょうか。

〇「１日限りの点数」では測れない「３年間の姿勢」の証明

入試当日のテストは、その日一度きりの結果です。一方、評定には、普段の授業への取り組み、提出物の質や期限、小テスト、学習へ向き合う姿勢など、３年間の「日々の地道な積み重ね」が表れます。高校側は「その時だけ頑張った結果」ではなく、毎日の学習にどのように向き合ってきたかを見極めているのです。



〇苦手教科から逃げない「誠実さ」の評価

得意な教科だけでなく、苦手な教科にも粘り強く取り組む姿勢が評価されます。「テスト前だけ頑張ればいい」ではなく、毎日の授業を大切にし、提出物を最後まで仕上げ切り、分からないことをそのままにしないコツコツとした積み重ねこそが、確かな学力と成長につながります。

４．やり切る力「自分チェックリスト」

- □　毎日の授業を大切にし、提出物や課題を期限までにやり切っている
- □　苦手な教科からも逃げず、基礎基本を身につける努力をしている
- □　挨拶や言葉遣い、マナーを徹底し、自他の良さを認め合って協力できている
- □　係や当番、部活動や学級の役割を、最後まで投げ出さずにやり切っている

「当たり前」のその先へ！
今できる日々の努力を積み重ね
自らの手で未来の扉を力強く切り拓いていこう！